

# 歌人・大西民子生誕100周年記念展示—故郷・盛岡を想う— 展示資料目録

会期：2024年4月1日(月)～5月30日(木)

会場：岩手県立図書館 吹き抜けスペース

No	種別	内容	所蔵
1	手作り冊子	夏季休暇日誌 1934(昭和9)年作	
2	自筆原稿(コピー)	「小学生のころ」	
3	冊子	城南尋常小学校卒業記念誌	
4	地図	『盛岡古地図』1996(平成8)年刊行 盛岡タイムス社 「宅地地番入 盛岡市街図」(1928年)	岩手県立図書館蔵
5	民子所有品	盛岡高等女学校 校章	
6	自筆原稿	「獅子舞の笛をラジオに聞きしより故郷の雪の山々浮かぶ」	
7	手作り冊子	大西民子初期の手作り歌集『びわの花』1945(昭和20)年5月末日作	
8	自筆原稿	「挽歌を作りつづけた三十年」	
9	自筆色紙	「きららかについばむ鳥の去りしあと長くかかりて水はしづまる」	
10	パネル写真	盛岡市内に建つ大西民子の歌碑	
11	民子蔵書本	歌集『冬暦』木俣修 著 1948(昭和23)年・初版 八雲書店	
12	自筆色紙	「かたはらに置くまぼろしの椅子ひとつあくがれて待つ夜もなし今は」	
13	自筆色紙	「完きは一つとてなき阿羅漢のわらわらと起ちあがる夜無きや」	
14	民子所有品	民子印	
15	自筆短冊	「遠き雲の地図を探さむこの町をのがれむといふ妹のため」	
16	自筆原稿	「たれよりもしあわせにならむと言はれみき故郷を出でて三十年たつ」	
17	民子所有品	紫綬褒章	
18	雑誌	雑誌「波濤」創刊号 1993(平成5)年刊行 波濤短歌会事務局	

所蔵欄に記載がないものは、さいたま市立大宮図書館所蔵資料です

## ごあいさつ

2024年は、盛岡出身の歌人・大西民子(1924-1994)の生誕100年、没後30年の記念の年です。

民子は1924年岩手県盛岡市に生まれました。小学生の時に、盛岡天満宮にある石川啄木の歌碑を見て短歌に興味をもち、盛岡高等女学校の頃から歌を詠み始めました。25歳で埼玉県大宮市(現・さいたま市大宮区)に移り住んだ民子は、歌人・木俣修に弟子入ります。その後歌人として頭角を現し、1982年に『風水』で迢空賞を受賞、1992年には紫綬褒章を受章しました。民子は69歳で亡くなりますが、原稿等の資料約1万点が大宮市に寄贈され、現在さいたま市立大宮図書館で資料の保存・整理・展示を行っています。大宮に住んでからはほとんど盛岡に帰ることはなかった民子ですが、生涯に渡って、故郷を想う歌を詠んでいます。

この度、大西民子生誕100年を記念し、岩手県立図書館のご協力のもと、大西民子の里帰り展示を開催する運びとなりました。展示では、大西民子の代表作をはじめ、盛岡時代に作成した日誌や故郷を詠んだ歌の自筆原稿等などを紹介いたします。

生誕100年の今、盛岡の皆さまにも改めて民子の歌の魅力を感じていただけますと幸いです。

最後になりましたが、本展開催にあたり、ご協力いただきました皆さまに、心より感謝申し上げます。

さいたま市立大宮図書館

# 大西民子略年表

西暦	年齢	あゆみ
1924	0	5月8日、岩手県盛岡市八幡町にて、菅野家の次女として生まれる
1931	7	盛岡市立城南尋常小学校(現・盛岡市立城南小学校)入学。在学中に盛岡天満宮の石川啄木の歌碑を見て短歌に興味を持つ
1937	13	岩手県立盛岡高等女学校(現・盛岡第二高等学校)入学。このころから短歌を作りはじめ、校友誌に掲載
1941	17	奈良女子高等師範学校(現・奈良女子大学)の文科第一部(国漢専攻)入学。在学中に歌人・前川佐美雄の教えを受ける
1944	20	戦争により奈良女子高等師範学校を半年繰り上げ卒業 岩手県立釜石高等女学校(現・釜石高等学校)に教員として赴任する
1945	21	釜石市を逃れ、生徒とともに遠野市へ疎開、終戦を迎える
1947	23	大西博と結婚
1948	24	男子を死産、尿毒症により約半年間病床につく 回復後、歌人・木俣修の歌集『冬暦』を読んで感銘を受ける
1949	25	博とともに埼玉県大宮市(現・さいたま市大宮区)に移住し、埼玉県立文化会館で働き始める 同人雑誌「歌と随筆」に投稿した「回顧一年」が木俣修に選ばれて入選 木俣修に入門を許される
1953	29	木俣が「形成」を創刊し、民子も参加する。このころから夫と別居状態になる
1956	32	第一歌集『まぼろしの椅子』刊行。以降約5年間隔で歌集を刊行していく
1964	40	博と協議離婚
1968	44	埼玉県立図書館(のちに埼玉県立浦和図書館に改名)に異動 大宮市堀の内町の建売住宅を購入、妹・佐代子と同居する
1972	48	佐代子死去(享年40)
1980	56	埼玉県立久喜図書館で勤務し、館内奉仕部長に就任
1982	58	埼玉県立久喜図書館を最後に、公務員を早期退職 『風水』により第16回逍空賞を受賞
1983	59	師・木俣修が死去(享年76) 吉野昌夫と共に「形成」の指導者的立場になる
1985	61	母校・岩手県立盛岡第二高等学校に招かれ、卒業式で「私の歩んだ道」を講演する
1988	64	埼玉県岩槻市の浄国寺に民子の歌碑が建立される 埼玉県文化功労者として知事表彰される
1992	68	第九歌集『風の曼陀羅』により、第7回日本詩歌文学館賞受賞 紫綬褒章を受章
1993	69	大宮市文化賞を受賞 「形成」が解散し、後輩たちのため持田勝穂と共に短歌結社「波濤」結成、「波濤」創刊号刊行
1994	69	1月5日、心筋梗塞により大宮市堀の内町の自宅で死去(享年69) 岩槻市浄国寺に埋葬される
1996		民子の関係者より、民子の原稿・蔵書などの資料約1万点が大宮市に寄贈される
1998		遺稿集(第十歌集)『光たばねて』が波濤短歌会編で刊行
2000		民子を顕彰して、波濤短歌会が「大西民子賞」を、大宮市が「現代短歌新人賞」(現在はさいたま市主催)を設立 大宮市の氷川の杜文化館庭内に民子の歌碑が建立される
2009		岩手県盛岡市中津川沿い(上の橋緑地)に民子の歌碑が建立される
2019		移転後のさいたま市立大宮図書館に、民子をはじめとする郷土の文学者を特集した「文学資料コーナー」を設け展示を開始、及びデジタルアーカイブ「おおみやデジタル文学館」にて民子の資料をインターネットで公開する
2024		大西民子生誕100年をむかえる 4月1日、岩手県立図書館にて「歌人・大西民子生誕100周年記念展示 一故郷・盛岡を想う一」を開催